

建築学コース

科目区分 授業形態	専門基礎科目 講義	
	構造物と技術の発展 (2単位)	
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 1年前期 必修	建築学 1年前期 必修
教員	遠岡 順 教授 山田 健太郎 教授 勅使川原正臣 教授	

●本講座の目的およびねらい

土木・建築の歴史的役割を治山・治水・耐震・耐火などの防災論的視点、また水供給、エネルギー供給、交通利便の供給、住宅の供給、アメニティの供給など社会資本整備の観点の両方から概説し、その中で個々の代表的技術および構造物の歴史的展開を紹介する。そして土木・建築の過去から未来へとつながる技術の継承を認識させる。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

・ガイダンス・構造物の力学理論の発展史・鋼構造物の技術史・橋梁技術と用いられる材料の変遷・長大橋梁に至る最近の技術開発・設計と意思決定・地盤沈下・鉄筋コンクリート造建築物の超軽量・超高層化技術の開発・高知能建築構造システムの開発・高層と津波・震動と海岸保全・鋼構造物の地震被害と耐震工学・東海・東南海地震・兵庫県南部地震・まとめ

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

出席及びレポート

科目区分 授業形態	専門基礎科目 講義	
	都市と文明の歴史 (2単位)	
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 1年前期 必修	建築学 1年前期 必修
教員	林 良嗣 教授 森川 高行 教授 恒川 和久 講師	

●本講座の目的およびねらい

人類の建設活動の歴史を技術やデザインと関連させつつ概説し、その意味を考える。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

1. 都市化
2. 文明と環境
3. 文明と技術
4. 西洋の都市史
5. 日本の都市史

●教科書

都市史図集

●参考書

1. 景観と近郊の歴史的展開
2. 図集日本都市史
3. 図説都市の世界史1~4

●成績評価の方法

試験及びレポート

科目区分 授業形態	専門基礎科目 講義	
	図学 (2単位)	
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 1年前期 選択	建築学 1年前期 必修
教員	山下 哲郎 助教授	

●本講座の目的およびねらい

3次元空間にある図形(点、線、面および立体)を2次元の平面上に表現(作図)すること、逆に表現された図から3次元図形を計量的・幾何学的に解析する種々の問題を扱うことにより、空間的図形情報の把握・表現能力を養う。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

1. 正投影法
2. 多面体と断面
3. 曲線と曲面
4. 立体の相互関係
5. 軸測投影

●教科書

●参考書

小高司郎 『現代図学』 森北出版株式会社

高橋研究室編 『かたちのデータファイル』 彰国社

●成績評価の方法

試験及び演習レポート(毎週)

科目区分 授業形態	専門基礎科目 講義	
	形と力 (2単位)	
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 1年後期 必修	建築学 1年後期 必修
教員	伊藤 益人 教授 大森 博司 教授	

●本講座の目的およびねらい

力や荷重、モーメントなどの基礎的概念を十分に理解した上で、建設系構造物を構成する各部分に発生する様々な力の作用状況を構造形態に応じて導出するための理論を学習し、これらに応用する手法を身につける。

●バックグラウンドとなる科目

なし

●授業内容

1. 構造物の力学モデルの基本的な考え方を講義し、力、荷重、モーメント、自由体、断面力の概念を講義する。
2. 自由体の作り方、支反力の求め方、断面力の種類と符号について講義する。
3. 軸力部材、はり、トラス、ラーメン、アーチ、ねじり部材の断面力を計算し、断面力図を描く手法を講義する。また、外力と断面力の関係の微分方程式を求め、
4. 安定・不安定、静定・不静定の考え方を説明し、実際の構造物の不静定次数を計算できるようにする。
5. 実構造物の力と形の関係について、トラスを例にして講義する。

●教科書

●参考書

ハンドアウトを配布する。

授業の最初にリストを提示する。

●成績評価の方法

中間試験(40%)、期末試験(40%)、レポート(20%)の結果により総合判断し、55%以上を合格とする。

科目区分 授業形態	専門基礎科目 講義	
	人間活動と環境 (2単位)	
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 1年後期 必修	建築学 1年後期 必修
教員	辻本 哲郎 教授 久野 寛 教授	

●本講座の目的およびねらい

人間の生活、生産、交通等の活動によりもたらされる環境負荷及び、それらの活動に必要な空間とインフラストラクチャの質を理解する。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

1. 経済発展・都市化とエネルギー消費・環境負荷
2. 日本と諸外国の交通システムと環境政策
3. 環境問題・環境保全のための経済学
4. 地球環境問題
5. 近代住宅・都市基盤施設の機能と意匠
6. 地球と建築・建築と人間
7. 光、音と人間
8. 河川と流域、河川環境認識の変遷、環境影響評価法、環境管理の方法
9. 生態系保全の考え方
10. 河川に沿う人間活動の環境の課題(砂防域、ダム周辺、中流域、下流域)

●教科書

●参考書

「環境工学教科書」環境工学教科書研究会、彰国社、2000

●成績評価の方法

レポート

科目区分 授業形態	専門基礎科目 講義	
	確率と統計 (2単位)	
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 1年後期 選択	建築学 1年後期 選択
教員	森 保宏 教授	

●本講座の目的およびねらい

確率・統計論の基本的理論や一般的な確率分布/確率モデルの特徴、調査や実験・観測などから得られるデータから母集団の特徴を抽出する解析方法、さらに、種々の不確定要因を伴う土木・建築システムの設計・計画における意思決定への適用方法について講義する。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

0. なぜ、確率・統計を学ぶのか、統計と倫理
1. 順序・組み合わせ
2. 確率の基本定理
3. 確率変数、確率分布
4. モーメント
5. ランダム事象の確率モデル
6. 回帰分析
7. 母集団の統計量の推定
8. 統計的検定
9. 確率分布の推定
10. 統計論的意決定

●教科書

すぐわかる確率・統計：石村(東京図書)

●参考書

工業統計学：村上(朝倉書店)

●成績評価の方法

中間試験(30%)、期末試験(40%)、小テスト(15%)、およびレポート(15%)

科目区分 授業形態	専門基礎科目 講義及び演習	
	数学I及び演習 (3単位)	
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 1年後期 必修	建築学 1年後期 必修
教員	水谷 法美 教授 川崎 浩可 助教授	

●本講座の目的およびねらい

工学の専門科目の基礎となる数学を理解させる。微分方程式及びベクトル解析の知識を系統的に示し、理論と応用との結びつきを習得させる。この授業を通して下記を達成する。

- 1階微分方程式の初等解法を理解し、説明できる。
- 2階線形微分方程式の解法を理解し、説明できる。
- 連立微分方程式と高階線形微分方程式の関係と解法を理解し、説明できる。
- ベクトル演算と積分・微分を理解し、説明できる。
- ベクトルと空間図形の関係を理解し、説明できる。

●バックグラウンドとなる科目

微分積分学I、微分積分学II、線形代数学I、線形代数学II

●授業内容

- 1,2週 微分方程式の初等解法(変数分離、同次型方程式、1階線形微分方程式、完全微分型方程式)
- 3,4週 定数係数の2階線形微分方程式(齊次方程式と標準形、2階齊次方程式の基本解、非齊次方程式の解法)
- 5,6週 変数係数の2階線形微分方程式(齊次方程式と基本解、ロンスキアン)
- 7週 高階線形微分方程式(連立1階微分方程式と高階微分方程式、2元連立方程式)
- 9週 ベクトルの基本的な性質
- 10週 ベクトルの微分
- 11週 平面曲線、空間曲線
- 12週 曲面の表現、距離・面積・法線
- 13週 ベクトルの場
- 14,15週 ベクトルの場の積分定理

●教科書

矢嶋信男：常微分方程式、理工系の数学入門コース-4、岩波書店
戸田盛和：ベクトル解析、理工系の数学入門コース-3、岩波書店

●参考書

●成績評価の方法

達成目標に関連する期末試験を実施し、その結果により総合判断し、55%以上を合格とする。

科目区分 授業形態	専門基礎科目 講義	
	情報処理序説 (2単位)	
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 1年前期 必修	建築学 1年前期 必修
教員	山本 俊行 助教授	

●本講座の目的およびねらい

情報メディア教育センターのシステムを使って、ファイル操作、情報の検索・発信法、電子メールの利用法、およびプログラミングについて学ぶ。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

1. コンピュータ倫理
2. ファイル操作
3. 電子メールの利用
4. 電子化情報の検索
5. ウェブページの作成
6. プログラミング

●教科書

・情報メディア教育システムハンドブック：名古屋大学情報メディア教育センターハンドブック編集委員会編、昭見堂
・原田賢一著「Fortran77プログラミング」(サイエンス社)

●参考書

●成績評価の方法

講義時間中に実際に作業を課すため授業参加(50%)および課題レポート(50%)によって総合判断し、55%以上を合格とする。

科目区分 授業形態	専門基礎科目 講義
	流れの力学 (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	建築学 2年前期 選択
教員	辻本 哲郎 教授 水谷 法美 教授 鷺見 哲也 講師

●本講座の目的およびねらい

流体力学の基礎と古典的な基礎水理学の体系を学び、これらを主として管路の流れに適用する能力をつける

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

1. 流れの力学
水の性質
静止流体の力学
完全力学の基礎と相対静止
2. 基礎水理学
ベルヌーイの定理
エネルギー損失
運動量保存則
層流と乱流の概念
抵抗の概念

●教科書

●参考書

水理学1：橋本一郎著（森北出版）

●成績評価の方法

筆記試験（2回実施、100%）

科目区分 授業形態	専門基礎科目 講義	
	空間計画法 (2単位)	
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 2年後期 必修	建築学 2年後期 必修
教員	林 良嗣 教授 加藤 博和 助教授	

●本講座の目的およびねらい

国土および都市の発展段階を認識した空間計画の理論について理解するとともに、欧米および日本における実際の空間計画制度について学習し、それらを相互比較することによって、21世紀の日本およびに求められる空間計画のあり方について探求する。

●バックグラウンドとなる科目

社会資本計画学、人間活動と環境

●授業内容

1. 概説
2. 因・都市の成長・衰退・再生のメカニズムと空間計画
3. 各国の空間計画制度
4. 土地収用・土地情報・土地市場制度の国際比較
5. 発展途上国における空間計画制度の現状と課題
6. 少子高齢化・人口減少と空間計画との関係
7. 空間計画が環境問題に及ぼす影響
8. 日本における空間計画制度の全体構成とプロセス
9. 日本における都市計画の問題点と改善策
10. 持続可能な都市経営のための空間計画
11. 国土・都市計画技術者に求められる倫理

●教科書

特になし

●参考書

国土調査：中村英夫編（技報堂）
日本人と土地：中村英夫、辻村明編（ぎょうせい）

●成績評価の方法

期末試験70%、レポート30%

科目区分 授業形態	専門基礎科目 講義及び演習
	空間設計工学及び演習第1 (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	建築学 2年前期 必修
教員	谷口 元 教授 西澤 泰彦 助教授 恒川 和久 講師

●本講座の目的およびねらい

建築設計に必要な図面を読む能力を養うとともに、その表現に必要な基礎的技術・方法を習得する。
課題内容に関連する建築・都市の問題点を把握分析、それを解決するための計画・デザインの専門知識・技術の習得と、着想・計画・設計能力、技術力および表現力を養う。

●バックグラウンドとなる科目

図学、形と力、人間活動と環境、都市と文明の歴史、構造物と技術の発展、社会環境工学概論、空間設計論、造形演習第一

●授業内容

第一課題では、空間の設計・計画に関する基本的な知識を学び、建築設計製図に関する基本事項を習得する。また、過去の著名な建築作品をトレースすることによって、建築の計画・デザインを言葉や図によって他者に伝える能力を学ぶ。
・第二課題では、小規模な空間を有する建築物の設計を行い、敷地の分析、プログラム、コンセプト、平面・断面・立面や構法の検討、という建築設計のプロセスについての基本事項を習得する。

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

閉日内に指定された成果物の完成度、創造性、社会に対する理解度、講評会での発表態度などを調査し、担当教官が各自総合的に採点し、その平均値をもって成績とする。

科目区分 授業形態	専門基礎科目 講義及び演習
	建築構造力学及び演習 (2.5単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	建築学 2年前期 必修
教員	飛田 潤 助教授

●本講座の目的およびねらい

建築構造物に作用する荷重と、それによって構造部材に生じる応力・応力度・変形の算定方法に関する基本的事項を修得する。まず静定構造物を詳細に扱い、次に不静定構造の考え方も講義する。

●バックグラウンドとなる科目

形と力

●授業内容

1. 静定構造物の応力（モデル化、力、単位、応力図、梁、フレーム、トラス）
2. 材料の性質（建築材料、フックの法則、弾性係数、応力ひずみ関係）
3. 断面の性質（中立軸、断面1次・2次モーメント、断面係数、複合応力）
4. 線材の曲げに関する基本式（基本式の導出）
5. 線材の変形（積分法、モーメントの定理、不静定への展開）
6. 不静定構造物（たわみ角法の基礎式、節点方程式、超方程式）
7. 総合演習

●教科書

●参考書

建築構造力学1、和泉正哲著、培風館

●成績評価の方法

演習レポートの提出とその内容（計40%）、期末試験（60%）により総合判断し、55%以上を合格とする。

科目区分 専門基礎科目
授業形態 講義及び演習
数学2及び演習 (3単位)

対象履修コース 社会資本工学 建築学
開講時期 2年後期 2年後期
選択/必修 選択 選択

教員 武田 一哉 教授

●本講座の目的およびねらい

数学1及び演習に引き続き、専門科目を学ぶ基礎として、工学上重要な方法であるフーリエ解析、さらに工学によく現れる偏微分方程式について講義する。数学的思考方法及び具体的問題に現れる理論と応用との結びつきを重視する。

●バックグラウンドとなる科目

数学基礎1, II, III, IV, V, 数学1及び演習

●授業内容

1. 常微分方程式
2. 偏微分方程式
3. ラプラス変換
4. フーリエ変換

●教科書

技術者のための高等数学3 フーリエ解析と偏微分方程式 R.クライツィグ著 培風館

●参考書

技術者のための高等数学3 常微分方程式 R.クライツィグ著 培風館

●成績評価の方法

試験及び演習レポート

科目区分 専門基礎科目
授業形態 講義
空間設計論 (2単位)

対象履修コース 建築学
開講時期 2年前期
選択/必修 必修

教員 山下 哲郎 助教授
小松 尚 助教授

●本講座の目的およびねらい

建築の構法や寸法といった物理的な基礎知識と、建築・都市空間と行動様式、生活様式、文化の関係について学ぶ。特に下記の観点から、建築・都市空間を計画・デザインしていくために必要となる専門知識・技術を習得するとともに、生活や周辺環境に対して建築・都市空間が与える影響について理解を深める。
・建築の主体構造、各部構法の物理的な成り立ち
・人間生活との関わりから見た建築・都市空間の成り立ち
・建築・都市を計画するときの機能性に関する原理

●バックグラウンドとなる科目

図学、人間活動と環境

●授業内容

- 第1週 建築の構法や材料に関する概説
- 第2週 主体構造の構法1：木造
- 第3週 主体構造の構法2：鉄骨造
- 第4週 主体構造の構法3：鉄筋コンクリート造
- 第5～7週 各部構法
- 第8週 設計プロセスと構法
- 第9週 建築に関わる単位
- 第10週 建築に関わる寸法1：人体寸法・動作寸法
- 第11週 建築に関わる寸法2：視覚と心理領域
- 第12週 人間の集合場面と空間
- 第13週 施設の規模計画
- 第14週 施設の配置計画
- 第15週 移動空間の計画

●教科書

空間デザインの原点：岡田光正（理工学社）
コンパクト設計資料集：日本建築学会編（丸善）
建築構法：内田祥哉監修（市ヶ谷出版社）

●参考書

●成績評価の方法

第1から8週まで、第9から15週までの内容でそれぞれ試験（各50%）を行い、その結果から成績を算出する。55%以上が合格である。

科目区分 専門基礎科目
授業形態 講義及び演習
空間設計工学及び演習第2 (2単位)

対象履修コース 建築学
開講時期 2年後期
選択/必修 必修

教員 山下 哲郎 助教授
小松 尚 助教授
恒川 和久 講師

●本講座の目的およびねらい

住宅を中心に居住空間の計画、意匠、構造、設備の基本を学び、その応用として、独立住宅の計画と設計を行って、配図、平面図、立体図、断面図、透視図を主とする基本的な図面や模型を作成し、プレゼンテーションの技法を習得する。

●バックグラウンドとなる科目

空間設計工学及び演習第1

●授業内容

1. 地域の把握と外部空間の設計
2. 小規模居住空間の課題設計

●教科書

●参考書

第2版コンパクト建築設計資料集：日本建築学会（丸善）

●成績評価の方法

作品発表

科目区分 専門基礎科目
授業形態 演習
応用構造力学及び演習 (2.5単位)

対象履修コース 建築学
開講時期 2年後期
選択/必修 必修

教員 古川 忠徳 助教授

●本講座の目的およびねらい

構造力学及び演習に引き続き、建築構造設計の基礎となる骨組構造力学の理論とその応用について講述する。例題学習とレポート課題を通して、講義内容に習熟させ、併せて構造物における荷重伝達の仕組みを理解させる。

●バックグラウンドとなる科目

形と力、構造力学及び演習、数学1及び演習、力学1及び演習

●授業内容

1. 骨組の弾性力学：骨組の解析原理、応力法、たわみ角法、仮想仕事の原理
2. 骨組の塑性力学：構造部材の非弾性域における挙動、トラスの崩壊挙動、はりの弾塑性曲げ、骨組の崩壊荷重

●教科書

なし

●参考書

なし

●成績評価の方法

試験及びレポート

科目区分 授業形態	専門基礎科目 講義
	鉄骨構造 (2 単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	建築学 2 年後期 必修
教員	田川 浩 助教授

●本講座の目的およびねらい

鉄骨構造(鋼構造)建築物の構造設計法の全般について講義する。鋼材の基本的性質、柱・梁など部材の設計方法、ボルト接合・溶接接合、部材間の継手・柱梁接合部・柱脚の設計方法について講述する。

●バックグラウンドとなる科目

形と力、建築構造力学及び演習

●授業内容

1. 鉄骨構造の概要 2. 鋼材の性質 3. 引張を受ける部材の設計 4. 圧縮を受ける部材の設計 5. 曲げを受ける部材の設計 6. 局部座屈 7. 梁部材の設計 8. 柱部材の設計 9. 高力ボルト接合 10. 溶接接合 11. 継手の設計 12. 柱梁接合部の設計 13. 柱脚の設計 14. 構造計画

●教科書

鋼構造(第2版): 嶋津孝之 編集(森北出版)

●参考書

必要に応じてプリントを配布

●成績評価の方法

小テスト(10回程度、30%)と期末試験(70%)の結果より総合判断し、55%以上を合格とする。

科目区分 授業形態	専門基礎科目 講義及び演習	
	解析力学及び演習 (2.5 単位)	
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 2 年前期 選択	建築学 2 年前期 選択
教員	野田 利弘 助教授	

●本講座の目的およびねらい

(1年次までに学んだ)ニュートン力学を復習・意識しながら、仮想仕事の原理、より普遍的な力学原理であるラグランジュの運動方程式とハミルトンの原理等を学習することにより、解析力学による多様な運動の統一的理解とより深い力学的考察ができる基礎力を養う。

●バックグラウンドとなる科目

数学1及び演習、力学1・2、微積分学1・2、線形代数学1・2

●授業内容

1. ニュートン力学の基礎的事項の復習
2. 仮想仕事の原理
3. ラグランジュの運動方程式
4. 微小振動問題・連成運動・基準振動
5. ハミルトンの原理、位相空間、正準変換

●教科書

田辺行人・品田正樹: 理・工基礎 解析力学(数研研)

●参考書

参考書: 宮下精二 解析力学(数研研)、田村武 構造力学(朝倉書店)

●成績評価の方法

レポート(20%)、初回・中間試験(30%)、期末試験(50%)の結果より総合判断し、55%以上を合格とする。

科目区分 授業形態	専門科目 講義	
	社会資本計画学 (2 単位)	
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 2 年前期 必修	建築学 3 年前期 選択
教員	森川 高行 教授 奥田 陸明 助教授	

●本講座の目的およびねらい

道路・鉄道・空港・上下水道・公園などの社会資本施設の経済学的特徴、その計画策定の手順、及び需要予測・評価の分析方法について論ずる。

●バックグラウンドとなる科目

都市と文明の歴史、人間活動と環境、確率と統計、空間計画論、都市・国土計画

●授業内容

1. 社会資本とその特徴
2. 社会資本計画の目標と策定過程
3. 計画の必要性の検討・需要予測
4. 社会基盤整備の効果
5. 社会資本の経済分析
6. 社会資本計画の評価法
7. 数理計画法
8. 社会資本計画者としての倫理

●教科書

土木計画学: 河上省吾編著(鹿島出版会)

●参考書

●成績評価の方法

試験および演習レポート

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	物理環境工学 (2 単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	建築学 2 年後期 必修
教員	久野 兌 教授

●本講座の目的およびねらい

建築における熱・空気・光・音等の物理的環境に関して概説し、それらを制御するための設計方法について示す。

- ・太陽の動き、光の物理量を理解し、簡単な室内照明設計ができる。
- ・音の物理量・遮音装置の仕組みを理解し、現行時間などが計算できる。
- ・外界と室内を分ける壁体における熱移動を理解し、計算ができる。
- ・重力換気と風力換気を理解し、簡単な換気計算ができる。

●バックグラウンドとなる科目

人間活動と環境、流れの力学

●授業内容

1. 熱の移動と伝達
2. 湿度伝達と結露
3. 換気の物理
4. 換気設計
5. 光の物理
6. 採光計画と照明設計
7. 音の物理
8. 音響設計

●教科書

環境工学教科書: 環境工学教科書研究会編著(彰国社)

●参考書

建築気候: 斉藤平哉(共立出版) 建築換気計画: 石原正雄(朝倉出版) 建築計画原論II、III: 藤辺毅(丸井)

●成績評価の方法

試験

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	コンクリート工学 (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	建築学 2年後期 必修
教員	勅使川原正臣 教授 丸山 一平 助教授
●本講座の目的およびねらい	
<p>建築工事に欠かせないコンクリート（鉄筋コンクリートやプレストレストコンクリートを含む）の力学および性能、材料、製造、施工、維持、などについての講義を行う。本講座の目標は以下のとおり</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンクリートを構成する材料について理解する。 2. フレッシュコンクリートの性質を理解する。 3. 硬化コンクリートの性質を理解する。 4. コンクリートの耐久性及と環境負荷について理解する。 5. 各種コンクリートの構造上の特性を理解する 	
●バックグラウンドとなる科目	
鉄筋コンクリート構造、建築材料工学、構造・材料実験法	
●授業内容	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 序論、コンクリート以外の材料一般論(1) 2. コンクリート以外の材料一般論(2) 3. コンクリートとは・コンクリートの歴史・事例 4. コンクリート構造物が出来るまで、コンクリートの構成材料・要求性能・特徴 5. コンクリート用材料 セメント 水和 6. コンクリート用材料 水 水和材(粉) 骨材 7. 配合設計 8. フレッシュコンクリートの性質 9. 中間試験 10. -12. 硬化したコンクリートの性質1 2 3 13. 耐久性 14. -15. コンクリート技術の現状1 2 	
●教科書	
必要に応じてプリントを配布する。	
●参考書	
『建築材料』理工図書、『建築構造材料学』朝倉書店、『JASS 5』日本建築学会	
●成績評価の方法	
演習問題(数回、50%)、試験(50%)の結果により総合判断し、55%以上を合格とする。	

科目区分 授業形態	専門科目 講義	
	交通論 (2単位)	
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 3年前期 選択	建築学 4年前期 選択
教員	中村 英樹 助教授 山本 俊行 助教授	
●本講座の目的およびねらい		
<p>交通が国土・地域・都市の形成に果たしてきた役割について論じ、交通の需要や自動車の流れなどの交通現象の分析法について講義する。</p>		
●バックグラウンドとなる科目		
都市と文明の歴史、人間活動と環境、確率と統計、社会資本計画学、空間計画論		
●授業内容		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 交通計画や交通管理を行う交通技術者としての倫理 2. 道路交通流の特性 3. 道路交通流を解析するための理論 4. 単位時間当たりに処理できる人・車両数を表す道路の交通容量 5. 交通信号制御の基礎 6. 交通の意義及びトリップの定義、交通体系の計画と評価 7. 内帯な交通状態を導くための交通管理 とITS 8. 交通調査の方法論 9. 交通需要予測(四段階推定法)の概要 10. 分布交通量モデル 11. 交通量配分モデル 12. 交通量配分モデル 13. 非集計交通行動モデル 		
●教科書		
交通工学：河上、松井著（森北出版）		
●参考書		
●成績評価の方法		
試験(75%)および演習レポート(25%)		

科目区分 授業形態	専門科目 講義及び演習
	建築設計及び演習第1 (3単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	建築学 3年前期 必修
教員	片木 眞 教授 小松 尚 助教授 山下 智郎 助教授
●本講座の目的およびねらい	
<p>都市的なスケールと公的な機能をもつビルディング・タイプを課題として取り上げ、建築および外構の計画・デザインについての知識と技術の習得を図る。</p>	
●バックグラウンドとなる科目	
空間設計工学及び演習第1、空間設計工学及び演習第2	
●授業内容	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 小規模集合住宅などの建築物を題材に、与えられた条件（規模、敷地）に基づき、その企画・基本設計を行い、さらに配置図、平面図、立面図、断面図、透視図など基本図面や模型の製作を行う。 2. 教育施設を題材に、与えられた条件（規模、敷地）に基づき、その企画・基本設計を行い、さらに配置図、平面図、立面図、透視図など、基本図面や模型の製作を行う。 	
●教科書	
●参考書	
コンパクト建築設計資料集：日本建築学会編（九冊） 建築設計資料集総合編、都市・地域1/2：日本建築学会編（九冊）	
●成績評価の方法	
作品発表	

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	建築史第1 (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	建築学 3年前期 選択
教員	西澤 泰彦 助教授
●本講座の目的およびねらい	
<p>古代から近代にいたる日本の建築について、建築様式・意匠、構造・材料、生産システムの特徴と変遷を理解し、建築・都市に関する計画・設計や調査・分析に活用できる能力を身に付ける。特に、宗教建築や住宅の建築様式・意匠の特徴と変遷、木造軸組構造を中心とした建築構造・材料および生産システムの特徴と変遷、建築と都市の関係、東アジア諸国や西洋の建築との関係、について理解する。</p>	
●バックグラウンドとなる科目	
都市と文明の歴史、構造物と技術の発展	
●授業内容	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 構造と建築文化 2~4. 古代住居・神社建築・仏教建築・都市計画(3回) 5. 奈良・平安時代の住宅 6~7. 中世の仏教建築・住宅・都市(2回) 8. 城郭建築 9~12. 江戸時代の都市・住宅・宗教建築(4回) 13. 幕末・明治維新の建築 14~15. 20世紀の建築 	
●教科書	
日本建築史図集：日本建築学会（彰国社）	
●参考書	
<p>太田博太郎：日本建築史序説：彰国社 平井聖：日本住宅の歴史：日本放送出版協会 太田博太郎監修：日本建築様式史：美術出版社 高橋謙夫他編：図説日本都市史：東京大学出版会 稲垣榮三：日本の近代建築：鹿島出版会 藤森照信：日本の近代建築（上下）：岩波新書</p>	
●成績評価の方法	
学期末に行なう筆記試験の成績	

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	建築計画第1 (2単位)
対象履修コース	建築学
開講時期	3年前期
選択/必修	選択
教員	清水 裕之 教授

●本講座の目的およびねらい

建築計画とは何れという問いから始め、建築設計の各種課題の事例を示しながら、背景となる歴史、社会制度、建築技法、使われ方などを踏まえ、「用」の観点から建築の空間構成、機能などについて高度な専門知識を自ら獲得する力をつける。特に、博物館、劇場、図書館、住宅、集合住宅などを扱う。

●バックグラウンドとなる科目

空間設計論、確率と統計

●授業内容

- ・ 建築計画とは
- ・ 博物館の分類、制度、機能、空間乃成り立ち、展示方法、展示空間、収蔵庫、事例から学ぶ
- ・ 劇場空間の基本型、歴史、機能と空間構成、要素空間の設計、事例から学ぶ
- ・ 図書館の種類、機能、サービス、レイアウト、空間構成、要素空間の設計、事例から学ぶ
- ・ 住宅 明治期から今日までの住宅例を中心に空間と生活、空間構成、社会と住宅との関係を学ぶ
- ・ 集合住宅 集合住宅のタイプ、住戸密度、集住方式、住戸形態、各事例から学ぶ
- ・ ホテルの空間構成を見る

●教科書

教科書：コンパクト建築設計資料集成（日本建築学会編）

●参考書

特に指定はしないが各自関連文献をチェックすること

●成績評価の方法

- ・ レポート提出3回程度50%
- ・ 試験の成績 50%
- ・ それぞれの結果について、55%の成績を最低基準とする。

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	人間環境工学 (2単位)
対象履修コース	建築学
開講時期	3年前期
選択/必修	必修
教員	久野 兌 教授

●本講座の目的およびねらい

環境と人間の生理心理の関わり及びそれに基づく環境評価・設計への応用について講ずる

- ・ 湿熱4要素と人間の生理心理反応との関係を理解し、各種空調方法の選択に応用できる。
- ・ 基礎的な色彩計画、照明計画ができる。
- ・ 音環境評価指標について理解し、基礎的な音響設計および騒音対策ができる。
- ・ 調査法・環境心理評価法を知り、簡単な環境調査ができる。

●バックグラウンドとなる科目

人間活動と環境、物理環境工学

●授業内容

1. 感覚・知覚・認知
2. 湿熱環境評価
3. 視環境評価
4. 聴覚と音環境評価
5. 空気質 (IAQ)
6. 空間知覚
7. 住居環境に対する住民意識
8. 健康と快適

●教科書

環境工学教科書：環境工学教科書研究会編著（彰国社）

●参考書

●成績評価の方法

試験

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	環境システム工学 (2単位)
対象履修コース	建築学
開講時期	3年前期
選択/必修	必修
教員	奥宮 正哉 教授

●本講座の目的およびねらい

近代の建築・都市の環境は、エネルギーと物質を消費する幾つかのサブシステムからなる統合的環境システムを操作して形成される。持続的快適かつ機能的な住居・作業空間を創造するシステムについて講義する。

●バックグラウンドとなる科目

人間活動と環境、物理環境工学、流れの力学、人間環境工学

●授業内容

1. 建築・都市と環境システム
2. エネルギー・熱と物質の流れ
3. 負荷の性質
4. エネルギー利用と熱源の計画
5. 空気調和設備概論
6. 給排水設備概論
7. 環境システムの評価

●教科書

新建築学大系 27巻、設備計画：(丸善)

●参考書

新建築学大系 10巻、建築環境学1：(丸善)

●成績評価の方法

試験

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	耐震工学 (2単位)
対象履修コース	建築学
開講時期	3年前期
選択/必修	選択
教員	福和 伸夫 教授

●本講座の目的およびねらい

建築構造物の耐震設計に必要な基礎知識を学ぶ。まず地震被害と地震動の特性を理解し、次に振動理論を学習した後、最後に耐震設計手法を学ぶ。具体的には、

- ・ 過去の地震における建築物の被害原因を理解し、他者に説明できる。
- ・ 地震の発生メカニズムと地震動の揺れを形成する要因を理解し説明できる。
- ・ 地震時の建築物の応答の特徴を理解し、他者に説明できる。
- ・ 振動量の基礎を理解し、1自由度系の自由振動と共振曲線を計算し、固有周期と減衰を評価できる。

●バックグラウンドとなる科目

力学1及び演習、数学2及び演習、建築構造力学及び演習、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造

●授業内容

1. 建築と耐震、2. 兵庫県南部地震における地震動と被害概要、3. 兵庫県南部地震における戸建住宅の被害、4. 兵庫県南部地震における建物被害、5. 耐震設計と地震応答、6. 地震の発生、7. 地震動強さと地震、建物被害、8. 耐震診断・耐震改修、免震・制震技術、9. 建築物の振動解析モデル選定と限界耐力計算法、10. 1自由度系の自由振動と減衰、11. 1自由度系の定常振動と共振、12. 1自由度系の過渡応答と地震応答スペクトル、13. 多自由度系の自由振動、14. 多自由度系の振動と1自由度等效、15. 地震の振動

●教科書

地震と建築防災工学（理工図書）
Web上に講義資料をダウンロード可能なようにする。
(<http://www.charaku.nac.nagoya-u.ac.jp/~fukuwa/lecture-taisin.htm>)

●参考書

最新耐震構造解析（森北出版）
地震と建築（岩波書店）

●成績評価の方法

毎講義にレポートを提出。
毎講義でのレポートを50%、末試験の成績を50%としたうえで、総合評価により採点する。
55%以上の得点を合格とする。

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	鉄筋コンクリート構造 (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	建築学 3年後期 必修
教員	勸使川原正臣 教授

●本講座の目的およびねらい

鉄筋コンクリート構造 (RC構造) は鉄筋とコンクリートという異種の材料を組合せて外力に抵抗する複合構造である。したがって、外力に対する抵抗メカニズムや部材の設計法は木造や鉄骨造とは異なった複雑な方法が用いられている。本講座では代表的な部材であるはりとうを中心として抵抗メカニズムと設計法について講義する。

●バックグラウンドとなる科目

建築構造力学及び演習、コンクリート工学

●授業内容

1. RC構造の原理・特徴
2. RC部材の力学の基本概念
- 3,4. 梁部材の性能 (曲げ性能, せん断性能, 変形性能, 配筋)
- 5,6. 柱部材の性能 (曲げ性能, せん断性能, 変形性能, 配筋)
- 7,8. 耐震壁の性能 (挙動, 曲げ・せん断性能, 浮き上がり, 開口補強)
9. 中間試験
- 10,11. 柱・梁接合部性能 (せん断, 付着, 定着)
12. 基礎, 他
- 13-15. RC構造の構造設計法

●教科書

教科書: 「鉄筋コンクリート構造の設計 - 学びやすい構造設計 -」日本建築学会関東支店
必要に応じてプリントを配布する。

●参考書

参考書: 鉄筋コンクリート構造設計規準・同解説, 鉄筋コンクリート造建物の耐震性能評価指針 (案)・同解説 日本建築学会その他

●成績評価の方法

課題 (50%), 期末試験 (50%) の結果により総合判断し、55%以上を合格とする。

科目区分 授業形態	専門科目 講義及び実験
	構造・材料実験法 (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	建築学 3年後期 必修
教員	丸山 一平 助教授

●本講座の目的およびねらい

建築構造物に用いられる主要な構造材料である鋼材およびコンクリートに関する基礎的な実験方法を学習するとともに、各種材料に実際に触れ、材料・構造が破壊する様子を観察する。授業の前半では、材料・構造実験法の原理、計測システム、データ整理方法、安全管理に関する講義を行い、後半では、試験体の作成、各種測定手法、観測方法などを実習する。

●バックグラウンドとなる科目

構造材料工学, 構造力学及び演習, 応用構造力学及び演習

●授業内容

1. 実験の目的および安全管理
2. 実験の背景となる物理・化学現象
3. 材料力学および測定原理
4. セメント・混和材の性質, フレッシュコンクリートの試験
5. 骨材試験
6. コンクリートの配合設計と試し練り
7. コンクリートの打設
8. コンクリートの圧縮試験
9. 圧縮強度の非破壊試験
10. 鉄筋の非破壊検査
11. 鉄筋の引張試験
12. H形鋼の曲げ試験
13. RC梁用鉄筋の組み立て
14. RC梁の曲げ試験
15. 講評会

●教科書

構造材料実験法: 谷川恭雄他 (森北出版)

●参考書

●成績評価の方法

レポート

科目区分 授業形態	専門科目 講義及び演習
	建築設計及び演習第2 (3単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	建築学 3年後期 選択
教員	清水 裕之 教授 谷口 元 教授 非常勤講師 (建築)

●本講座の目的およびねらい

建築群及び都市内大規模開発の計画・設計演習を通して空間の計画・設計技術の習得を図る。

●バックグラウンドとなる科目

空間設計工学及び演習第1, 空間設計工学及び演習第2, 建築設計及び演習第1, 社会施設計画1・2

●授業内容

1. 学校, 集合住宅などの社会施設の一つについて与えられた条件 (規模, 敷地) に基づき, その企画・基本設計を行い, さらに配図, 平面図, 立面図, 断面図, 透視図など基本図面や模型の製作を行う。
2. 都市・地域などを題材にして与えられた条件にもとづき, 企画・計画を行い, 計画図等をまとめる。

●教科書

コンパクト建築設計資料集 (日本建築学会編)

●参考書

コンパクト建築設計資料集: 日本建築学会編 (丸啓)

●成績評価の方法

作品発表

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	建築史第2 (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	建築学 3年後期 選択
教員	片木 眞 教授

●本講座の目的およびねらい

古代から近世までの西洋建築・都市のデザインと技術を、自然条件や政治・経済・社会・文化的背景を踏まえて概観し、建築・都市を計画・設計する際の基礎知識を習得する。

●バックグラウンドとなる科目

建築史第1

●授業内容

1. エジプト
2. ギリシャ
3. ローマ
4. 初期キリスト教・ビザンチン
5. ロマネスク
6. ゴシック 1 (総論)
7. ゴシック 2 (教会建築)
8. 中世都市と世俗建築
9. ルネサンス 1 (総論と教会建築)
10. ルネサンス 2 (都市と世俗建築)
11. バロック 1 (総論と教会建築)
12. バロック 2 (都市と世俗建築)
13. 18世紀 1 (英国ジョージ朝の建築と造園)
14. 18世紀 2 (革命期建築から新古典主義へ)

●教科書

日本建築学会編 「西洋建築史図集」 彰国社

●参考書

●成績評価の方法

試験及びレポート

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	建築計画第2 (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	建築学 3年後期 選択
教員	谷口 元 教授 恒川 和久 講師

●本講座の目的およびねらい

建築は社会的な存在であることを理解し、具体的事例の考察を通して、そのなかで行われる様々な営みと建築空間のかかわりを理解し、それを複眼的な視点で設計に反映させるために必要な「建築プログラムを理解する目」、「建築プログラムを考える力」を習得する。

●バックグラウンドとなる科目

空間設計論、建築計画第1、確率と統計

●授業内容

建築計画とは何かという問からはじめ、建築設計の各種課題について事例を示しながら、背景となる歴史や社会制度、建築技法、使われ方などを踏まえ、「用」の観点から建築の空間構成、機能などについて高度な専門知識を自ら獲得する力をつける。特に、教育施設、医療福祉施設、オフィス、商業施設などを扱う。また、建築と社会とを結びつけている関連分野への理解を求める。

●教科書

●参考書

コンパクト建築設計資料集

●成績評価の方法

レポート、試験

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	都市・国土計画 (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	建築学 3年後期 選択
教員	

●本講座の目的およびねらい

都市づくりの理念、目標とその実現手法は大きな変革に直面している。本講座では近現代の都市設計計画の目的・目標、その実現手段を計画論と制度論、事業論の各視点から検証する。その上で21世紀の都市設計計画の主題とその在り方について論考する。

●バックグラウンドとなる科目

都市と文明の歴史、都市と環境、空間計画論

●授業内容

1. 都市設計計画の理念
都市の形態と意味
都市設計計画理論の発展と歴史
近世域下町都市の設計理念
2. 近代都市設計計画の成立・背景
近代都市設計計画の目標像
復興都市計画と設計理念
3. 現代都市設計計画の主題と方法
法定都市計画の枠組み
地方分権と国土計画の新たな課題
都市計画マスタープランの役割と成果
都市計画マスタープランと市民参加
4. 都市設計の主題と方法
都市設計の社会的背景と展開
都市設計の先進事例
参加型まちづくりと都市設計計画
都市再生の計画と実践
大規模緑地/公園の計画と市民参加

●教科書

講義時間内に配付する資料を用いる

●参考書

都市計画図取用図辞典、中心市街地再生と持続可能なまちづくり、まちづくりの科学、住居学、人口尺度論、都市計画、都市計画教科書、ほか

●成績評価の方法

毎講義時間内的小レポート 20% 中間レポート 40% 期末レポート 40%

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	設備工学 (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	建築学 3年後期 選択
教員	奥宮 正哉 教授 齋藤 輝幸 助教授

●本講座の目的およびねらい

建築設備の設計にはシステムを構成する各要素の特性ならびにシステム全体としての入力特性の理解が重要である。環境システム工学で述べたシステム設計・創製の基礎理論をもとに、その応用について講義し、主な建築設備システムについて目的・特徴、構成・概要、都市環境や室内環境との関係を理解する。

●バックグラウンドとなる科目

物理環境工学、環境システム工学、人間環境工学、流れの力学

●授業内容

1. 建築設備の基礎
建物内の輸送設備、電気設備、熱源・衛生設備の基本的事項を学ぶ。
2. 熱源・空調システムと創製
地域冷暖房、蓄熱システム、大空間の空調設備、自動制御の目的・特徴、構成・概要を理解する。
3. 未利用エネルギー・自然エネルギー利用システム
未利用エネルギーの有効活用、コージェネレーションシステム・燃料電池、太陽・風力エネルギーシステム、雨水・中水利用システムの目的・特徴、構成・概要を理解する。
4. 住宅性能と室内環境
住宅の性能基準と温熱・空気質環境について学ぶ。

●教科書

●参考書

新建築学大系 27巻、設備計画：(丸啓)

●成績評価の方法

試験

科目区分 授業形態	専門科目 講義及び演習
	環境システム設計及び演習 (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	建築学 3年後期 選択
教員	奥宮 正哉 教授 齋藤 輝幸 助教授 原田 昌幸 助教授

●本講座の目的およびねらい

事務所ビルの基本計画演習を行い、その事務所ビルに対して空調負荷低減と空調・給排水設備に関する負荷計算および設計演習を行う。これにより、基本的な省エネルギー手法に関する知識と実務的な設計知識を身につける。

●バックグラウンドとなる科目

物理環境工学、環境システム工学、人間環境工学、設備工学

●授業内容

1. 建築設備設計の概要について講義する。また、事務所ビルの基本計画演習を行う。
2. 省エネルギー計画の概要について講義し、省エネルギー計画(PAL計算)演習を行う。
3. 空調ゾーニングと空調熱負荷計算の概要について講義し、空調熱負荷計算演習を行う。
4. 空調方式の概説、空調ダクト設計と吹出し口選定、空調機設計とFCU選定について講義する。
講義内容に基づき、空調ダクト系および空調機設計の演習を行う。
5. 給排水設備設計の概要について講義し、給排水設備設計演習を行う。

●教科書

●参考書

新建築学大系 27巻、設備計画：(丸啓)
空調調和設備の実務の知識：(オーム社)
給排水・衛生設備の実務の知識：(オーム社)

●成績評価の方法

レポート(計算書、図面その他)

科目区分 授業形態	専門科目 講義及び演習 建築構造解析及び演習 (2.5 単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	建築学 3年後期 選択
教員	大森 博司 教授

●本講座の目的およびねらい

構造力学の基本的な知識を、行列理論を用いて実際の構造物の構造解析に応用する方法を学ぶとともに、計算機を利用した実際の計算法を演習を通して習得する。

●バックグラウンドとなる科目

形と力、力学Ⅰ及び演習、構造力学及び演習、応用構造力学及び演習

●授業内容

1. マトリクス法概説 2. 平面トラスの応力解析法 3. 平面ラーメンの応力解析法 4. 付組の振動解析法

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

レポート

科目区分 授業形態	専門科目 講義 構造設計工学 (2 単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	建築学 3年後期 選択
教員	森 保宏 教授

●本講座の目的およびねらい

建築物の構造安全性・使用性を確保するための構造設計法について、まず、現行の設計基準を習得した後、性能設計の実現に向け、建築基準法の位置付け、性能水準の定量的評価法および具体的な設計手法としての限界状態設計法について学ぶ。

●バックグラウンドとなる科目

形と力、建築構造力学及び演習、応用構造力学及び演習、鉄骨構造、鉄筋コンクリート構造、構造・材料実験法、耐震工学

●授業内容

1. 構造計画と構造設計
2. 各種構造設計法
(許容応力度設計法、終局強度設計法、限界状態設計法)
3. 信頼性指標、荷重・耐力係数
4. 荷重の統計的評価、荷重の組合せ
5. 固定荷重と積載荷重
6. 雪荷重と耐雪設計
7. 風荷重と耐風設計
8. 地震荷重と耐震設計
1. 震災と耐震設計法、
2. 地震時における建築物の挙動
3. 旧制度法と新耐震設計法
1) 動的応答特性
2) 一次設計と二次設計
3) 保有水平耐力
建築基準法と構造物の安全性
性能設計と自己責任/建築技術者の責任

●教科書

●参考書

地震と建築防災工学(理工図書)
耐震建築の考え方(岩波書店)
建築物荷重指針・同解説(日本建築学会)

●成績評価の方法

レポート(6回程度、30%)と期末試験(70%)

科目区分 授業形態	専門科目 講義 建築基礎工学 (2 単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	建築学 3年後期 選択
教員	飛田 潤 助教授

●本講座の目的およびねらい

建築基礎構造を計画・設計するために必要な知識の概要を修得する。概略内容は、地盤の成り立ち、土の基本的性質、建築基礎構造の種類と概要、建築基礎構造の設計、施工法などである。以下を目標とする。

1. 地盤の構成や土の性質を理解し、建築基礎構造との関係を検討できる。
2. 各種基礎構造の特徴を理解し、基礎構造の設計に活かすことができる。
3. 建築基礎構造の選択を理解し、具体的な基礎構造設計手順を習得する。

●バックグラウンドとなる科目

土質力学

●授業内容

1. 地形・地質と地盤、地盤災害
2. 土の物理的・力学的性質
3. 地盤調査
4. 土の圧密と沈下
5. 土のせん断変形とせん断強度
6. 土圧
7. 地盤の支持力
8. 建築基礎構造の概要
9. 建築基礎構造の設計(直接基礎と杭基礎)

●教科書

●参考書

指定しない。

ザ・ソイール-建築家のための土質と基礎、藤井衛ほか著、建築技術

●成績評価の方法

レポート(20%)、中間試験(30%)、期末試験(50%)により総合判断し、55%以上を合格とする。

科目区分 授業形態	専門科目 講義 建築材料工学 (2 単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	建築学 3年後期 選択
教員	丸山 一平 助教授 非常勤講師(建築)

●本講座の目的およびねらい

建築に用いられる各種材料・製品を、素材、生産方法、力学的特性、基準など、多方面から分類・整理し、材料生産の技術が建築設計に与える影響を考察する。また、特に多様な非構造材料に関する知識を習得することによって、適切な材料選択、すなわち材料設計がどのような手順で行われているのかを学ぶ。

●バックグラウンドとなる科目

構造材料工学

●授業内容

1. 建築材料概論
2. 材料の性能と性質
3. コンクリート用材料と製造方法
4. コンクリートの性質
5. 鉄鋼の性質と製造方法
6. 木材と木質材料
7. 金属系非構造材料
8. セラミック系材料
9. 高分子系材料
10. 塗料、接着剤、シーリング材
11. 断熱・防火材料
12. 断熱・防水材料
13. 外装材料
14. 内装材料
15. 建築材料の選択と施工事例の紹介

●教科書

●参考書

建築材料：小野、谷川勉(理工図書)
建築材料：杉山、橋高(市ヶ谷出版社)

●成績評価の方法

試験及びレポート

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	建築生産システム (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	建築学 3年後期 選択
教員	非常勤講師 (建築)

●本講座の目的およびねらい

建築物が実際に生産される過程について、歴史的な進歩、新技術の導入、あるいは生産管理の現状などに関して学習する。また建築工事の実験の手順や、各工程における合理化・省力化の新技術が紹介される。

●バックグラウンドとなる科目

コンクリート工学、建築材料工学、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造

●授業内容

1. 建築生産概論 (建設業の概観)
2. 建築生産概論 (建築生産の流れと管理、生産構造)
3. 請負契約と施工者の決定
4. 施工計画と施工管理
5. 施工設備 (仮設設備、建設機械)
6. 地下工事 (地盤調査、山留め工事)
7. 基礎工事 (土工事、排水工事)
8. 基礎工事 (くい工事)
9. 躯体工事 (鉄筋工事)
10. 躯体工事 (型枠工事)
11. 躯体工事 (コンクリート工事)
12. 躯体工事 (鉄骨工事)
13. 仕上工事 (外装工事)
14. 仕上工事 (内装工事)
15. 現場見学

●教科書

「現代建築生産」 大岸佐吉、山中五郎 共著 (オーム社)

●参考書

●成績評価の方法

小テストと演習問題 (成績評価の30%) と期末試験 (成績評価の70%) の結果より総合的に判断し、55%以上を合格とする。

科目区分 授業形態	専門科目 講義及び演習
	総合設計及び演習第1 (3単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	建築学 4年前期 選択
教員	各教員 (建築学)

●本講座の目的およびねらい

単体・複合建築、あるいは地域・都市計画について、自ら課題を設定して (A) 構造 (B) 計画 (C) 設備を主とした基本設計を行う。

●バックグラウンドとなる科目

空間設計工学及び演習第1・第2、建築設計及び演習第1・第2

●授業内容

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

作品提出

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	建築史第3 (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	建築学 4年前期 選択
教員	片木 篤 教授 西澤 泰彦 助教授

●本講座の目的およびねらい

西洋および日本の近代建築・都市のデザインと技術を、自然条件や政治・経済・社会・文化的背景を踏まえて概観し、建築・都市を計画・設計する際の基礎知識を習得する。

●バックグラウンドとなる科目

建築史第1、建築史第2

●授業内容

1. 近代建築とは何か
2. アーツ・アンド・クラフツ運動
3. アル・ヌーヴォー
4. F. L. ライトとアメリカ住宅
5. 表現主義の概観
6. アヴァンギャルドの動向
7. ドイツ工作連盟からバウハウスまで
8. ル・コルビュジエの建築・都市
9. 日本に導入したコロンナル・スタイル
10. 移来・明治維新の近代化政策と洋風建築
11. 初期の日本人建築家
12. 日本人建築家による独自性の追求
13. 建築法規と建築生産の近代化
14. 日本の初期モダニズム
15. 戦争と建築の近代化

●教科書

●参考書

近代建築1・2: マンフレッド・タフラー一編 (本の友社)
現代建築史: ケネス・フ ランプトン (育土社)
日本の近代建築: 徳垣栄三 (鹿島出版会)
日本の近代建築: 藤森照樹 (岩波書店)

●成績評価の方法

試験

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	社会環境保全学 (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	建築学 4年前期 選択
教員	井村 秀文 教授 奥宮 正哉 教授

●本講座の目的およびねらい

大気汚染・水質汚濁・廃棄物・地球環境問題について社会環境保全の立場から講義する

●バックグラウンドとなる科目

衛生工学
環境システム工学
設備工学

●授業内容

1. 我々の環境問題の概観
2. 大気汚染
3. 水質汚濁
4. 廃棄物問題
5. 地球環境問題
6. 建築における省エネルギー
7. 新エネルギー
8. 未利用エネルギー

●教科書

●参考書

土木学会環境システム委員会編「環境システム—その理念と基礎手法」、朝倉書店

●成績評価の方法

筆記試験

科目区分
授業形態
専門科目
講義
防災安全及び建築法規 (2 単位)

対象履修コース
開講時期
選択/必修
建築学
4 年前期
選択

教員
森 保宏 教授
西澤 泰彦 助教授
非常勤講師 (建築)

●本講座の目的およびねらい

建築・土木などの分野における災害を概観し、危険度評価につながる安全設計手法の基本を理解し、建築基準法の基本的な知識を習得する。さらに、次のような能力を身に付ける。1) リスクと安全の概念を理解し、説明できる。2) 事故の予測・解析手法としての FTA、FMEA を理解し、簡単な問題に適用できる。3) リスクマネジメントの概念とリスクコミュニケーションの役割を理解し、説明できる。4) 1 級建築士受験に必要な建築法規に関する基本的な知識を習得する。

●バックグラウンドとなる科目

確率と統計、構造物と技術の発展、都市と文明の歴史

●授業内容

1. 安全とは、安全を身かすもの、建物の安全、リスクと安心
- 2~3. 安全の指し手、失敗に学ぶ、技術システムの落とし穴：見落とし、ヒューマンファクター、技術システム、経済性、倫理と安全文化
4. 安全を作り出す設計思想：フェールセーフ、フェールブルーフ
5. 安全を確かめる技術 (1)
- 6~8. 建築物と構造 - 防火・都市に関する規定
- 9~10. 防火から見た都市史と明治期の耐震技術
11. 安全を確かめる技術 (2) PSA 等
- 12~13. 自己責任、災害リスクマネジメント：巨大災害と安全目標
- 14~15. リスク認知とリスク情報、リスクコミュニケーション、安全学

●教科書

建築法規用教材 2004, 日本建築学会編

●参考書

安全学、村上陽一郎、育士社
安全学の現在、村上陽一郎、育士社
地震リスクマネジメント、坂谷勝・中村孝明、山海堂
リスクとつきあう、吉川肇子、ゆうひかく堂 (リスク心理学入門、岡本浩一、サイエンス社
建築に失敗する方法、林 昌二、彰国社
安全の目録り、平野敏右衛門、コロナ社

●成績評価の方法

授業中のディスカッションへの参加 (20%)、レポート (80%)

科目区分
授業形態
専門科目
講義及び演習
総合設計及び演習第 2 (3 単位)

対象履修コース
開講時期
選択/必修
建築学
4 年後期
選択

教員
各教員 (建築学)

●本講座の目的およびねらい

総合設計及び演習第 1 で基本設計を行った課題について、もしくは指導教員の承認を得た課題について、より細部にわたる設計を行う。本演習は、卒業設計に準ずるものとする。

●バックグラウンドとなる科目

総合設計及び演習第 1

●授業内容

エスキスと講評を行う。

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

作品発表

科目区分
授業形態
専門科目
実験・演習
卒業研究 A (2.5 単位)

対象履修コース
開講時期
選択/必修
建築学
4 年前期
必修

教員
各教員 (建築学)

●本講座の目的およびねらい

研究テーマの設定、研究の遂行、論文の執筆、成果発表等を通じて、建築・都市が抱える問題を総合的に把握・解析し、建築・都市の質的向上を図る能力を身に付ける。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

研究室に分かれて教員とディスカッションしながら卒業研究のテーマを決め、研究し、その成果を卒業論文にまとめる。研究の内容、研究方法などは指導教員の指導を受け、自分で資料収集、実験、解析などを行って卒業研究をすすめる。一連のプロセスを通じ、未知の問題をどのような方法で調査・解決するかについての演習を行う。

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

科目区分
授業形態
専門科目
実験・演習
卒業研究 B (2.5 単位)

対象履修コース
開講時期
選択/必修
建築学
4 年後期
必修

教員
各教員 (建築学)

●本講座の目的およびねらい

研究テーマの設定、研究の遂行、論文の執筆、成果発表等を通じて、建築・都市が抱える問題を総合的に把握・解析し、建築・都市の質的向上を図る能力を身に付ける。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

研究室に分かれて教員とディスカッションしながら卒業研究のテーマを決め、研究し、その成果を卒業論文にまとめる。研究の内容、研究方法などは指導教員の指導を受け、自分で資料収集、実験、解析などを行って卒業研究をすすめる。一連のプロセスを通じ、未知の問題をどのような方法で調査・解決するかについての演習を行う。

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義及び演習 情報処理及び演習 (1.5 単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	建築学 2 年後期 選択
教員	恒川 和久 講師

●本講座の目的およびねらい

建築CAD (Computer Aided Design) ソフトを用いて二次元、三次元の建築設計を行うための技術に関する基礎的知識を身につける。実際にコンピュータを操作することによって、道具としてのコンピュータの活用を体得する。

●バックグラウンドとなる科目

情報処理序説、空間設計工学及び演習第1、空間設計論

●授業内容

講義、演習は三つの段階に分けられる。
 1. 建築図書を読解する能力を身につけるために、木造講法の専門知識を講義し、建築物の成り立ちを理解することによって、図面に描かれる箇々の線の意味を習得する。
 2. 具体的な木造住宅を題材にして、線の意味を理解しながら、二次元CADによって建築図書を表記・説明する能力を習得する。
 3. 住宅作品を題材に、三次元CADによって平面図・立面図等の二次元図形を立体化し、コンピュータによる表現力を体得する。

●教科書

初めての建築製図 (学芸出版社)
 建築講法 (市ヶ谷出版社)

●参考書

VectorWorks 10 徹底解説 基本編・活用編 (エクスナレッジ)

●成績評価の方法

レポート、小テスト

科目区分 授業形態	関連専門科目 演習 造形演習第1 (1 単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	建築学 2 年前期 選択
教員	非常勤講師 (建築)

●本講座の目的およびねらい

(1) 基礎的な造形力の向上。
 (2) 造形におけるイメージ力や自由な発想力の向上。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

基礎的な造形感覚 (スケール、プロポーション、形態、光、色彩等) を養うための演習を行う。
 ・平面、立体双方からのアプローチを交差させて総合的なプログラムとしている。
 ・様々な (紙・色鉛筆・粘土・石膏その他) な素材をもちいる。

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

作品提出

科目区分 授業形態	関連専門科目 演習 造形演習第2 (1 単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	建築学 3 年前期 選択
教員	非常勤講師 (建築)

●本講座の目的およびねらい

抽象・具象立体のスケール、プロポーション、形態、色彩等について、コンピュータ・CG (Computer Graphic) ソフトを用いた高度なデザインの専門知識と設計能力を習得する。
 また、自ら創造する形や、自然現象や社会現象、造形に接して得た感動を、コンピュータの情報処理能力を活用して他者に伝える能力を身につける。

●バックグラウンドとなる科目

情報処理及び演習、造形演習第1

●授業内容

演習は三つの段階に分けられる。
 1. 各種CGソフトの特徴を学び、状況に応じたコンピュータの活用を体得する。
 2. 身近なもののデザインを課題として、コンピュータを駆使して、新たな造形を創造する能力を習得する。
 3. 現実の空間における建築物の制約を離れたバーチャルアーキテクチャーを制作することにより建築造形の可能性を拡張する。
 また、作品を様々なツールを用いてプレゼンテーションする能力を習得する。

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

作品提出

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義 土質力学 (2 単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	建築学 3 年前期 選択
教員	津岡 嗣 教授 中野 正樹 助教授 野田 利弘 助教授

●本講座の目的およびねらい

土粒子と水からなる飽和土の力学的性質を理解するために、二相系混合材料の捉え方を講述する。特に、土粒子が構成する土骨格の変形を伴わない間隙水の移動 (浸透) と、有効応力概念に基づく土骨格の変形を伴う間隙水の移動 (圧密理論) の違いを明確にし、土質力学の知識を養う。また、力学の基本的事項である、力のつり合いと、応力とひずみなどについても復習する。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

1. 土質力学の概要
2. 土とその構造
3. 土の締め固め
4. 透水
5. 応力・間げき圧・有効応力・透水力
6. 圧縮特性
7. 一次元圧密理論

●教科書

プリント配布

●参考書

石原研而著 「土質力学」 (丸善)

●成績評価の方法

レポート (20%)、中間試験 (30%)、期末試験 (50%) の結果により総合判断し、55%以上を合格とする。なお無断欠席が1/2以上の場合は、期末試験の受験を認めない。

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義	
	計測技術及び実習 (2.5 単位)	
対象履修コース	社会資本工学	建築学
開講時期	3年前期	3年前期
選択/必修	選択	選択
教員	齋藤 輝幸 助教授 山本 俊行 助教授 飛田 潤 助教授	

●本講座の目的およびねらい

土木・建築分野の技術者が設計、製造、利用、保全する段階で必要とされる種々の測定法の原理について講義し、そのいくつかについて実習する。以下を目標とする。1. 土木・建築分野の技術者が必要とする各種評価法や測定・測量法の原理を理解する。2. 計測機器を用い、温度、音、光、風、振動等の測定が出来る。3. 測量機器を用い、距離、角、水平、平板等の測量が出来る。

●バックグラウンドとなる科目

物理環境工学、確率と統計、流れの力学、人間活動と環境

●授業内容

1. 計測技術とは(ガイダンス)
2. 温度の測定に関する講義と実習
3. 道路騒音の測定に関する講義と実習
4. 光環境の測定に関する講義と実習
5. 外界気象要素の測定に関する講義と実習
6. 風速の測定と流体の可視化に関する講義と実習
7. 振動の測定に関する講義と実習
8. 測量の原理と方法に関する概論講義
9. 測量の基本的な方法に関する講義と実習
10. 距離測量と角測量に関する講義と実習
11. 水準測量に関する講義と実習
12. 平板測量に関する講義と実習
13. 最近の測量技術に関する講義

●教科書

●参考書

中村英夫著「測量学」(技報堂)、日本建築学会「環境工学実験用教材I/II」

●成績評価の方法

各課題に対するレポートを総合的に評価して55%以上を合格とする。なお、原則としてすべての課題の出席・レポート提出を必要とする。

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義	
	衛生工学 (2 単位)	
対象履修コース	社会資本工学	建築学
開講時期	3年後期	3年後期
選択/必修	選択	選択
教員	片山 新太 教授 井村 秀文 教授 奥田 隆明 助教授	

●本講座の目的およびねらい

上下水道、廃棄物処理における、処理計画・送配水・処理法、および環境アセスメントについて講述する。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

1. 環境・衛生工学概論
2. 環境調査とアセスメント
3. 上水道(計画・送配水・処理)
4. 下水道(計画・集排水・処理)
5. 排水問題
6. 廃棄物処理(計画・施設)
7. 汚泥処理

●教科書

●参考書

衛生工学：川島曾・篠原紀・西川泰治編(森北出版)

●成績評価の方法

レポートおよび筆記試験

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義	
	土木史 (2 単位)	
対象履修コース	社会資本工学	建築学
開講時期	3年後期	4年後期
選択/必修	選択	選択
教員	馬場 俊介 講師 佐々木 葉 講師	

●本講座の目的およびねらい

土木工学(土木事業)の考え方を歴史を通して学ぶ。

●バックグラウンドとなる科目

都市と文明の歴史

●授業内容

1. 治水と港湾の歴史
2. 上下水道の歴史
3. 道路と鉄道史の歴史
4. 橋の歴史
5. 都市計画の歴史
6. 歴史的土木建造物の保存と活用

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

レポート

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義	
	世界の建設プロジェクト (2 単位)	
対象履修コース	社会資本工学	建築学
開講時期	2年前期	4年前期
選択/必修	選択	選択
教員	林 良嗣 教授 非常勤講師(土木)	

●本講座の目的およびねらい

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義	
	経営工学 (2 単位)	
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 4 年後期 選択	建築学 4 年後期 選択
教員	非常勤講師 (教務)	

●本講座の目的およびねらい

製造業を中心とする企業経営において、その成長・発展に不可欠な技術革新のマネジメントを学ぶ。経営学、組織論、経済学、技術史などの多様な観点から解説する。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

1. 技術革新の連続性～コネクションズ～
2. 技術革新における飛躍～セレンディピティ～
3. 革新的組織と場のマネジメント
4. 技術革新の背景～パラダイムシフト～
5. 技術革新のダイナミズム～アーキテクチャ～
6. 技術革新能力の変化～コンカレント・ラーニング～

●教科書

●参考書

講義中、必要に応じて紹介する。

●成績評価の方法

毎回の講義終了前にその日の講義内容を振り返るために小テストを行い、最終的にレポートを提出してもらう。平常点50%、レポート点50%で評価を行う。なお、1/3以上の欠席がある場合には、レポートの提出を認めない。

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義	
	工学概論第1 (0.5 単位)	
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 1 年前期 選択	建築学 1 年前期 選択
教員	非常勤講師 (教務)	

●本講座の目的およびねらい

社会の中核で活躍する名古屋大学の先輩が広く深い体験を踏まえて、学生に夢を与え、工学従事者に必須の対人的、かつ内面的な人間力を涵養し、その後の勉学の指針を与える。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

「がんばれば先輩」として、社会の中核で活躍する先輩が授業を行う。

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義	
	工学概論第2 (1 単位)	
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 4 年前期 選択	建築学 4 年前期 選択
教員	非常勤講師 (教務)	

●本講座の目的およびねらい

21世紀型のエネルギー・環境システムの構築には工学基礎知識を横断的かつシステム的に考えなければならない。本講義は地球規模の環境問題を含めて、エネルギーや環境問題に対する現状を概論するとともに環境調和型エネルギーシステム概念を習得させる事を主目的とする。特にエネルギー環境問題は運動性が重要になるため時事問題にも大いに目及するとともに、これからの技術開発指針や研究問題を明確にし、我が国の将来性を担う社会人の要領に重点を置く。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

1. 多様化する地球環境問題の現状と課題
2. 酸性雨問題と対応技術
3. フロンによるオゾン層破壊問題と対応技術
4. 地球温暖化問題と対応技術
5. 環境調和型エコエネルギーシステム
6. エネルギーカスケード利用とコージェネレーション
7. 21世紀中葉エネルギービジョンと先端技術

注：本講義は7月から8月にかけての3日間の集中講義方式で行う。

●教科書

事前に適切な書物を選定し知らせる。

●参考書

●成績評価の方法

試験及び演習レポート

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義	
	工学概論第3 (2 単位)	
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 4 年後期 選択	建築学 4 年後期 選択
教員	葛西 昭 講師	

●本講座の目的およびねらい

日本の科学と技術における各分野の発展の歴史および先端技術を把握する。

●バックグラウンドとなる科目

なし

●授業内容

日本の科学と技術における各分野の発展の歴史や先端技術について、ビデオや先端企業の見学を通して紹介する。日本が世界において科学的および技術的に果たす役割について討論し、理解を深める。

●教科書

●参考書

なし

●成績評価の方法

レポート

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義	
	工学倫理 (2単位)	
対象履修コース	社会資本工学	建築学
開講時期	1年前期	1年前期
選択/必修	選択	選択
教員	非常勤講師(教務)	

●本講座の目的およびねらい

技術は社会や自然に対して様々な影響を及ぼし種々の効果を与えています。それらに関する理解力や責任など、技術者の社会に対する責任について考え、自覚する能力を身につけることをめざします。

●バックグラウンドとなる科目

基本主題科目(世界と日本、科学と情報)

●授業内容

1. 工学倫理の基礎知識
2. 工学の実践に関わる倫理的な問題

●教科書

黒田光太郎、戸田山和久、伊勢田哲治編『誇り高い技術者になろうー工学倫理ノススメ』(名古屋大学出版会)

●参考書

c.ウィットベック(札幌大、飯野弘之共訳)『技術倫理』(みすず書房)、斎藤了文・坂下浩司編、『はじめての工学倫理』(昭和堂)、c.ハリス他著(日本技術士会訳)『科学技術者の倫理-その考え方と事例-』(丸善)、米国科学アカデミー編(池内了訳)『科学者をめざすきみたちへ』(化学同人)

●成績評価の方法

レポート

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義	
	産業と経済 (2単位)	
対象履修コース	社会資本工学	建築学
開講時期	4年後期	4年後期
選択/必修	選択	選択
教員	非常勤講師(教務)	

●本講座の目的およびねらい

具体的な経済問題について検討しつつ、一般社会人として必要な経済の知識を習得し、同時に経済学的な思考を学ぶ。

達成目標

1. 一般社会人として必要な経済知識の習得
2. 経済学的な思考の理解・習得

●バックグラウンドとなる科目

社会科学全般

●授業内容

1. 経済の循環・・・国民所得決定のメカニズム
2. 景気の変動・・・技術革新と太田景点説
3. 国際貿易と外国為替・・・世界経済のグローバル化
4. 政府の役割・・・日本の将来と望ましい財政
5. 日銀の役割・・・生活と物価の安定
6. 人口問題・・・過剰人口と過少人口
7. 経済学の歴史・・・自立と相互依存の認識
8. 試験

●教科書

中矢俊博『入門書を読む前の経済学入門』(同文館)

●参考書

P. A. サムエルソン, W. D. ノードハウス『経済学』(岩波書店)

●成績評価の方法

出席確認のレポートと試験で総合的に評価する。

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義	
	特許及び知的財産 (1単位)	
対象履修コース	社会資本工学	建築学
開講時期	4年後期	4年後期
選択/必修	選択	選択
教員	笠原 久美雄 教授	

●本講座の目的およびねらい

特許をはじめ知的財産を保護する制度について基本的な知識を習得するとともに、大学や企業で役に立つ「知的財産マインド」を修得する

●バックグラウンドとなる科目

特になし

●授業内容

1. 序論(特許の歴史、特許のケーススタディ)
2. 特許法(発明と特許)
3. 特許法(特許の効力、効果と意義)
4. 特許法(研究開発と特許)
5. 特許法(特許情報の検索、特許明細書の書き方、出願手続き)
6. 特許法(ソフトウェア特許、ビジネスモデル特許、遺伝子特許)
7. 著作権

●教科書

1. 工業所有権標準テキスト-特許編- (発明協会) (配布)
2. 書いてみよう特許明細書出してみよう特許出願 (発明協会) (配布)

●参考書

特になし

●成績評価の方法

毎回講義終了時に出題するレポート、モデル発明について作成する特許明細書

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義	
	建築学特別講義 (2単位)	
対象履修コース	建築学	
開講時期	4年後期	
選択/必修	選択	
教員	非常勤講師(建築)	

●本講座の目的およびねらい

建築学の各分野の最先端で活躍している建築家や研究者からそれぞれの分野における最先端のテーマに関する講義を聞く。

●バックグラウンドとなる科目

空間設計論、建築史第1・第2、建築計画第1・第2、人間環境工学、環境システム工学、都市・国土計画、鉄筋コンクリート構造、構造設計工学、建築材料工学、建築基礎工学

●授業内容

6人の非常勤講師がそれぞれのテーマについて、配布資料やスライド・OHPを用いて講義を行なう。

●教科書

なし

●参考書

なし

●成績評価の方法

6講義について講義概要と講義に関する感想(ともに2000字程度)を記したレポートを求め、前者については建築・都市に関する高度な専門知識と設計能力や技術力に関する部分の評価を重視する。合格基準は各講義のテーマ・内容を的確に把握していること。

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義	
	社会環境工学概論 (2単位)	
対象履修コース	社会資本工学	建築学
開講時期	後期	後期
選択/必修	選択	選択
教員	森川 高行 教授	

●本講座の目的およびねらい
土木工学や建築学が社会環境の向上に果たす役割を理解する

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容
前半では建設現場への視察等を通して社会基盤整備プロジェクトにおける土木工学の基礎理論と建設技術を紹介し、後半では日本の建築や都市のデザインや技術を視察等とあわせて多面的・包括的に紹介する。

●教科書

●参考書

●成績評価の方法
レポート

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義	
	職業指導 (2単位)	
対象履修コース	社会資本工学	建築学
開講時期	4年後期	4年後期
選択/必修	選択	選択
教員	非常勤講師(教務)	

●本講座の目的およびねらい
近年、高等学校で行われている進路・職業指導は、偏差値や成績による出口指導から進路選択力を育てる指導へと変化しつつある。そこで本講義では、職業社会への移行支援に必要な社会的知識・見識を養うため職業社会をマクロとミクロの両面から捉えることによって今後の高等教育の進路・職業指導のあり方を考えられるようになることを目指す。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容
1. 「職業指導」の歴史的背景
2. 社会構造の変化と階層化社会
3. フリーターの増加とニートの出現
4. 近代産業社会と教育
5. グローバリゼーションの進展と貧困問題
6. 知識社会における自然との共生
7. キャリア・カウンセリング
8. キャリア・ライフプラン
9. 学校段階から社会への移行
10. まとめ

●教科書
特に指定しない(資料は随時配布予定)

●参考書
菊池武烈 編著『新教育心理学体系2 進路指導』中央法規
仙崎武徳編著『入門進路指導・相談』樺村出版
藤本喜八 他編著『進路指導を学ぶ』有斐閣選書
佐藤俊樹『不平等社会日本』中公新書、2000年
荻谷剛彦『階層化社会と教育危機』有信堂
山田昌弘『希望格差社会』筑摩書房、2004年

●成績評価の方法
最終試験と出席による